

中尾小だより

〒336-0932 さいたま市緑区中尾 2596-1

HP <http://nakao-e.saitama-city.ed.jp> TEL: 048-873-0216 FAX: 048-810-1120

学校教育目標
知・徳・体の調和のとれた
心豊かな児童の育成

知恵は 生活の中にあり

校長 田口 幸久

最近のテレビや新聞でよく取り上げられている「食品ロス」。これはご承知の通り、「まだ食べられる多くの食材や料理が、様々な理由で捨てられている」という深刻な社会問題です。このことを考えるとせめて中尾っ子たちには、毎日の食事や給食を「食べられることに、感謝の思いを忘れないでほしい」と願わずにはられません。

そして、もう一つ給食で思い出すのは、私が学級担任していた時の5年生、Y君のことです。彼は、給食当番ではいつもご飯の配膳を担当していました。ご飯は青い大きなプラスチック製の入れ物に入ります。彼は、一人ひとりに「残さないでね」との呼び掛けをしながらご飯をよそるのです。そしてなぜか最後には、ご飯の入れ物の中が見事に空になるのです。その杓文字さばきもさることながら、私を含めた32人のクラス全員に、ほぼ均等に残さず盛付ける姿にいつも感心していました。

ある時、どうしていつも余ることなく上手に分けることができるのかと尋ねてみました。すると彼は得意げな顔でこう言いました。「先生、このクラスは先生を入れて32人でしょ。全部のご飯を杓文字でこうやって2つに分けると16人分、4つに分けると8人分、8つだと4人分。つまり、この位の分量のご飯を、4人に分けて配れば、丁度ピッタリになるでしょ」私は、彼の説明に思わず感心し、いつもの彼とは別人のように思え驚きました。実は彼は、算数が全くの苦手で、算数の時間になると下を向いたり、席を離れて何処かへ行ってしまったりという子だったからです。そのことをお母さんに伝えた時、こんなことを話してくれました。「私が働きに行っている間、たった一人で多くの兄弟姉妹にご飯をつくっては、ケンカしないように分けてあげているんです」ということでした。留守番の経験を活かし、自分の頭で考え筋道を立て、自分の言葉でわかりやすく説明してくれたY君。毎日の経験や兄弟姉妹への思いやりと行動が、配膳時に見事に活かされたのだと思いました。「知恵は、生活の中にあり」と言いますが、学んだことを身の回りの生活や自分の生き方に役に立たせていくことが、これからの時代、特に大切なのだと思います。「知識」と「知恵」について国語辞典(小学館:大辞泉)には次のようがありました。

【知識】 知ること。認識・理解すること。ある事柄などについて知っている内容。

【知恵】 物事の筋道を立て、計画し、正しく処理していく能力。

ユニバーサルスタジオジャパン他、多くの企業をV字回復させたことで最近注目の「最強マーケット」森岡毅氏は、あるTV番組で次のように述べていました。「人間は、社会的な動物です。人のために何かをやると、自分が幸せになれるものです。誰かの役に立てることを見つけていくことが大切だと思います」と。何のために学ぶのか。学んだこと(知識)を自分や人のためにどうやって活かしていくのか。私たちは、この視点をもつことが大切なのではないでしょうか。



夏休みも近づいてきました。コロナも少しずつですが落ち着き、この夏はどこかに出かけたり、親子で何かに挑戦したりするご家庭もあるのかと思います。学びの題材は、「日常の中に転がって」います。例えば、一緒に買い物に行った時におつりを計算してみる、見上げた夜空の星の名前を調べてみる無駄に捨てられていく食料がどのくらいあるのか調べてみる……。学習したことを、もう一度自分の経験と照らし、自分の頭でじっくり考えてみる。そんな機会も、夏休みならではだと思います。